

日本語指導の手引き④

-教科学習につながる教材と指導方法-

三重県教育委員会

はじめに

県内の公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、ここ数年増加し続けてきましたが、平成 22 年 9 月 1 日現在の調査によると、1,501 人となり、前年度同期より 37 人の減少となっています。一方で、当該の児童生徒が在籍する小中学校の数は 200 校となっており、県内の小中学校の約 3 校に 1 校の割合で、日本語指導が必要な外国人児童生徒が在籍していることとなります。

このような状況のもと、各市町等教育委員会や学校においては、子どもたちが、学校生活に適応し日本語で学ぶ力を身につけることができるよう、発達段階や文化のちがいに配慮しながら、一人ひとりの日本語習得状況に応じた効果的な指導の充実に取り組んでいただいているところです。

こうした取組の結果、日常会話やひらがな・カタカナの読み書き等においては顕著に成果が見られますが、各教科等の学習を進めるうえでの必要な日本語の習得には、課題もあると考えています。

県教育委員会では、外国人児童生徒教育を充実するため、平成 19 年度から、教師向けの「日本語指導の手引き」を 4 期に分けて作成してきました。

平成 19 年度には、「日本語指導の手引き①－受け入れにあたって－」を作成し、各小中学校の受入体制等の一層の充実をはかりました。平成 20 年度には、「日本語指導の手引き②－初期適応時の日本語指導と教材－」において、初期適応時の日本語指導を進めるにあたっての必要な取組や配慮事項、日常的に使う話し言葉の指導とひらがな・カタカナの指導等について取りあげました。平成 21 年度には、学習言語としての日本語能力の習得に視点を当て、「日本語指導の手引き③－教科学習につながる教材と指導方法－」において、教科等の学習の視点や必要な取組、配慮事項などについて取りあげました。また、取り出し指導等で行われている具体的な教材や指導方法例、教科等の学習を支援する取組例を紹介しました。

本年度は、昨年度に引き続き、「日本語指導の手引き④－教科学習につながる教材と指導方法－」を作成し、その中で教科指導のポイントや先進的な J S L カリキュラム等による実践事例等を取りあげました。

日本語指導が必要な外国人児童生徒を受け入れている学校におかれましては、本手引きを授業や研修会等で積極的に活用していただき、多文化共生の視点に立った効果的な日本語指導や教科指導等の取組を一層充実していただくよう願っています。

平成 23 年 3 月
三重県教育委員会

目 次

はじめに

1 外国人児童生徒への日本語指導 ー教科指導のポイントー*1	
○ 日本語指導と教科指導のつながり	1
○ 「日本語についての支援」の方法と留意点①	2
○ 「日本語についての支援」の方法と留意点②	3
○ 教科指導に先立って確認が必要な事項	4
○ 「わかりやすい授業づくり」の方法と留意点	5
○ 教科指導に向けた校内指導体制	6
2 実践事例	
(1) 実践事例の概要	7
(2) 姫路市立城東小学校*2	8
(3) 宇都宮市立清原東小学校*2	12
(4) 松阪市立第五小学校	19
(5) 鈴鹿市立桜島小学校	28
(6) 鈴鹿市立牧田小学校	35
3 三重県教育委員会事務局小中学校教育室作成の外国人児童生徒教育に係るホームページ掲載資料の紹介	65

*1 大阪教育大学教育学部臼井智美准教授に御執筆いただきました。内容等、詳細については、臼井智美編著「イチからはじめる外国人の子どもの教育」をご覧ください。

*2 三重県教育委員会事務局横断プロジェクト「日本語が読み書き話せる外国人児童生徒育成プロジェクト」の取組の一つとして、視察した当該学校の資料より引用しています。